

平成26年度 全国学力・学習状況調査

(平成26年4月22日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

平成26年10月

高石市教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

- …教科に関する調査
- 小学校：国語A・算数A**（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
- 中学校：国語A・数学A**（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

小学校第6学年（高石市：7校 児童数：585人） **中学校第3学年**（高石市：3校 生徒数：525人）

(4) 調査実施日

平成26年4月22日（火）

(5) 調査結果の取扱いについて

平成26年度調査は、全校調査で行われた。
 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
 本調査により測定できる学力は**特定の一部であり、学校における教育活動の側面を示すもの**である。

平成26年度 本市の校種・教科・区分別正答率

小学校		平均正答率		
		高石市(公立)	大阪府(公立)	全国(公立)
国語	A区分	68.2	70.7	72.9
	B区分	48.1	52.6	55.5
算数	A区分	75.6	77.3	78.1
	B区分	53.9	56.3	58.2

中学校		平均正答率		
		高石市(公立)	大阪府(公立)	全国(公立)
国語	A区分	80.0	77.0	79.4
	B区分	51.3	47.2	51.0
数学	A区分	67.8	65.0	67.4
	B区分	59.0	56.9	59.8

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

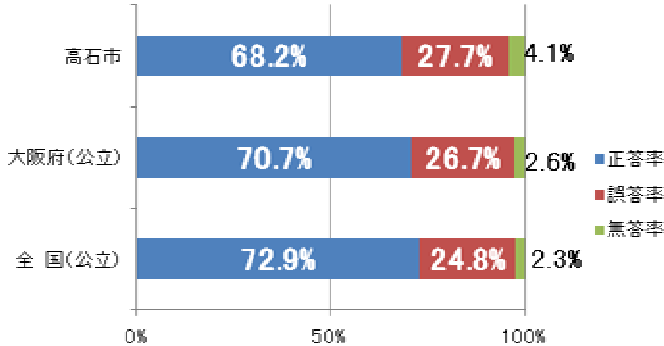
小学校においては、国語・算数のA区分（主として「知識」に関する問題）・B区分（主として「活用」に関する問題）ともに、全国平均・大阪府平均を下回る結果です。
 中学校においては、国語のA区分（主として「知識」に関する問題）・B区分（主として「活用」に関する問題）と、数学Aは全国平均・大阪府平均を上回る結果で、数学Bは大阪府平均を上回っています。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【小学校】

小学校国語

結果から見えてくる課題

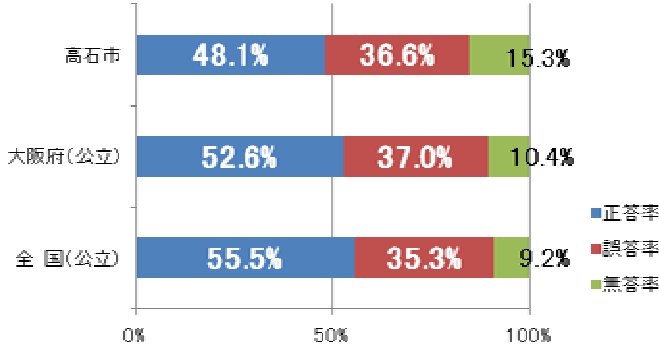
小学校国語A区分



A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が 72.9%であるのに対し、高石市は 68.2%であり、4.7 ポイント下回った。大阪の平均正答率が 70.7%であるのに対し、高石市は 68.2%であり、2.5 ポイント下回った。無答率においては、全国の状況より 1.8 ポイント高くなっている。

小学校国語B区分



B区分問題（主として「活用」に関すること）

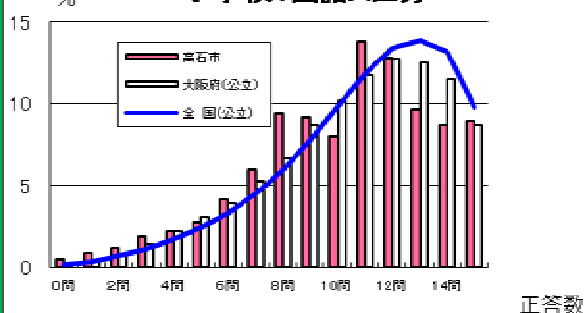
全国の平均正答率が 55.5%であるのに対し、高石市は 48.1%であり、7.4 ポイント下回った。大阪の平均正答率が 52.6%であるのに対し、高石市は 48.1%であり、4.5 ポイント下回った。無答率においては、全国の状況より 6.1 ポイント高くなっている。

正答数の分布については、下のグラフ《緑色枠》より、A区分（主として「知識」に関する問題）B区分（主として「活用」に関する問題）ともに、全国に比べて分布の山が左寄りになっており、全体的に課題があることがわかります。

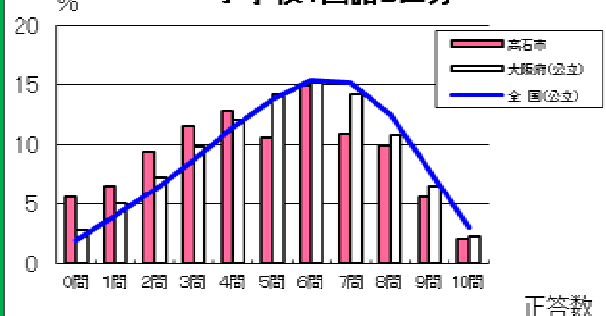
領域別にみると、次ページのグラフ《黄色枠》より、A区分・B区分の正答率を全国と比較すると、すべての領域において、全国を下回る結果になっていることがわかります。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

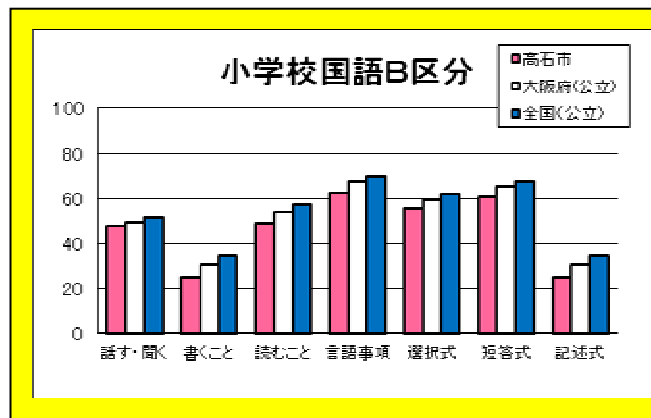
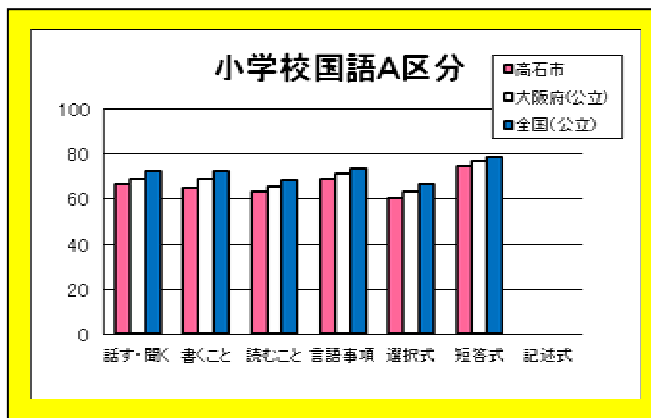
小学校：国語A区分



小学校：国語B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A 区分に見られる課題等について

A 区分(主として「知識」に関する問題)において、正答数の分布では全15設問中13～15問正答した人の割合が、全国よりも少なくなっています。一方で0～9問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、基礎・基本の定着に課題がみられます。定着に係る取組みを充実する必要があります。

領域別にみると、すべての領域、問題形式について、全国より低い正答率になっています。

特に、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の中で、「複数の事柄を並列の関係で書く」や「話し合いの観点に基づいて情報を関係づけて書く」などの問題の正答率が低くなっています。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低くなっています。

特に、基礎的な漢字の読み書きを問う問題では、「送り仮名がついている漢字の読み書きを問う」問題では、全国よりも正答率が低いです。また、「故事成語の意味と使い方を理解して、適切な文章を選び出す」問題や「文や文章の構成を理解して、正しい文章に書き直す」問題では、全国よりも特に正答率が低く、課題があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分(主として「活用」に関する問題)において、正答数の分布では全10設問中0～4問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、活用力に課題がみられます。

領域別でも、すべての領域、問題形式について、全国より低い正答率になっています。

特に「書くこと」、「読むこと」の中で、「自分の立場を明確にして、相手の発言を引用しながら、質問や意見を述べること」や「課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むこと」などの問題の正答率が低くなっています。

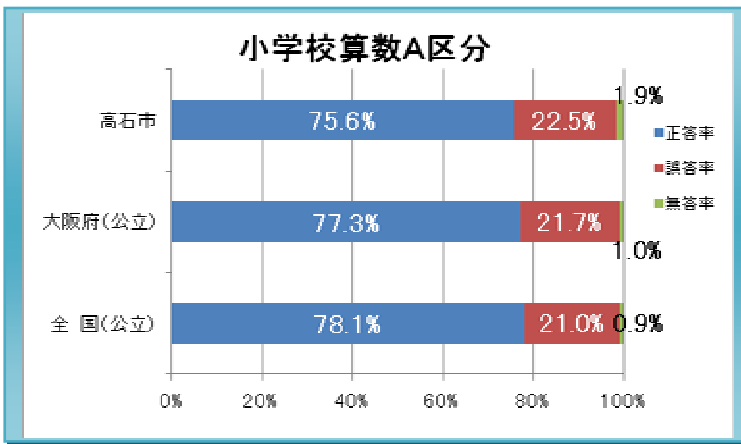
設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低くなっています。

「二つの詩の内容や表現の仕方などに着目して読み、自分の考えを書くこと」、「複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書くこと」に課題がみられます。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

小学校算数

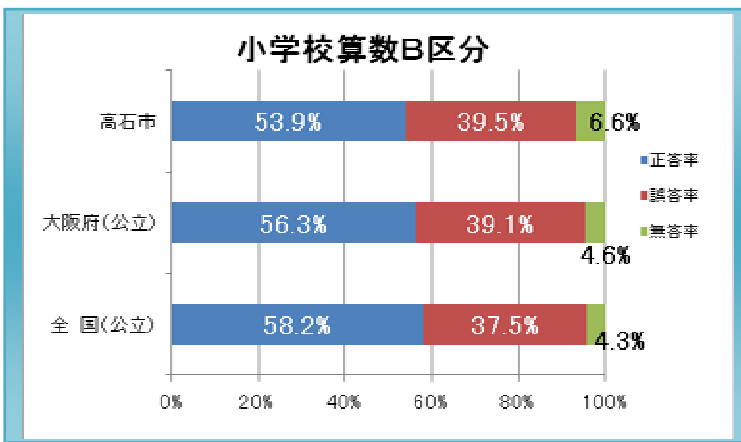
結果から見えてくる課題



A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が78.1%であるのに対し、高石市は75.6%であり、2.5ポイント下回った。大阪の平均正答率が77.3%であるのに対し、高石市は75.6%であり、1.7ポイント下回った。

無答率においても全国の場合より1ポイント高くなっている。



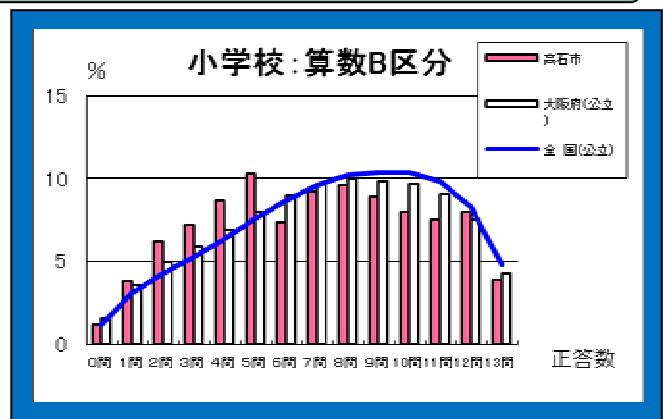
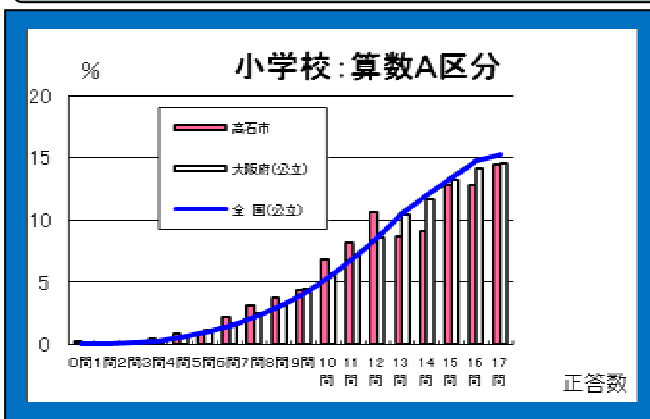
B区分問題（主として「活用」に関すること）

全国の平均正答率が58.2%であるのに対し、高石市は53.9%であり、4.3ポイント下回った。大阪の平均正答率が56.3%であるのに対し、高石市は53.9%であり、2.4ポイント下回った。無答率においては全国の場合より2.3ポイント高くなっている。

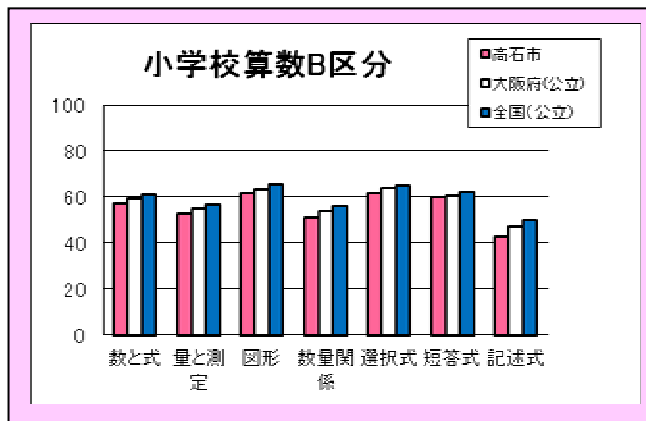
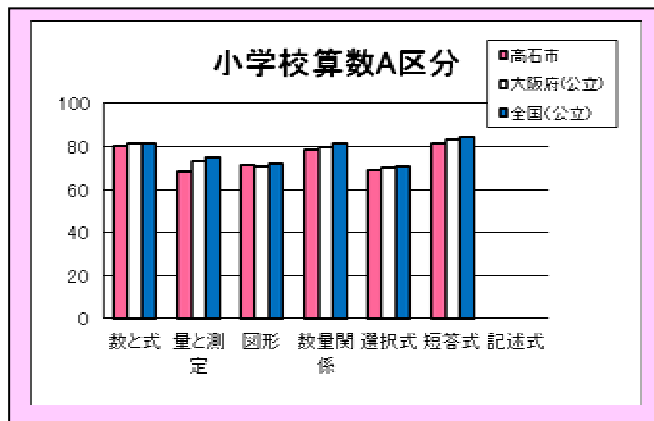
正答数の分布については、下のグラフ《青色枠》より、A区分（主として「知識」に関する問題）は、中間層の分布が多いことがわかります。一方、B区分（主として「活用」に関する問題）は、全国に比べて分布の山の頂点が左寄りになっており、課題がみられます。

領域別にみると、次のページのグラフ《桃色枠》より、A区分は、「量と測定」の領域や「短答式」の問題で課題あることがわかります。一方B区分では、「数量関係」の領域や「記述式」の問題で正答率が低くなっています。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全 19 設問中 6 ~ 12 問正答した中間層の人の割合が全国よりも多くなっており、短答式や選択式等基礎的な問題の理解はしていますが、学習内容を理解して記述することには、依然課題がみられます。

領域別にみると、すべての領域で全国より低い正答率になっています。特に「量と測定」の正答率では、全国平均から大きな差がみられます。中でも、「体積について単位と測定の意味を理解し、計算によって求める」という知識・理解を問う問題で大きな課題がみられます。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。

「整数のかけ算」「比較量の求め方」「分数の相等及び大小の比較」などの計算問題の正答率は、全国と同等です。しかし、「四則の混合した計算」「単位当たり量の求め方」や「体積の求め方」を問う問題で課題がみられ、必要な数値を取りだし、答えを導き出す力が必要になります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全 13 設問中、1 ~ 5 問正答した人の割合が全国よりも多くなっていることから、理解が不十分な子どもたちの底上げが課題としてあげられます。

領域別にみると、すべての領域、問題形式について、全国より低い正答率になっています。

特に、「数と計算」「数量関係」の中で、「計算のきまりをもとに、式や言葉を用いて数学的に表現すること」「二つの数値を比較し、公倍数に着目して求めること」を問う問題に課題がみられます。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。

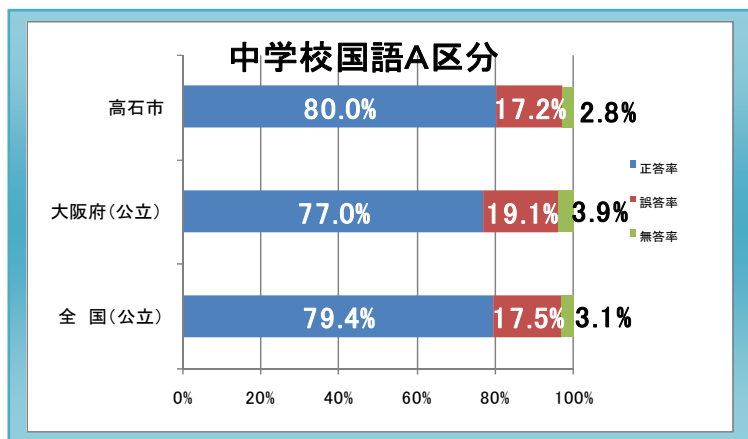
特に、「与えられた情報をもとに、筋道をたてて考え、数学的に表現すること」「ある数をもとにし、もう一方の数がその数の何倍になっているか関係性を導きだすこと」に課題があります。示された事象を観察し、規則性を読み取る力や、自分の考えを数学的に筋道たてて説明する力が求められます。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

中学校国語

結果から見えてくる課題

中学校国語A区分



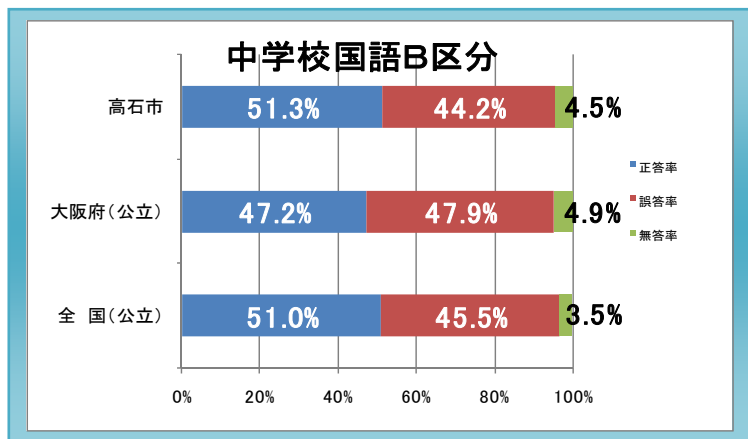
A 区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が 79.4%であるのに対し、高石市は 80.0%であり、0.6 ポイント上回った。

大阪府の平均正答率は 77.0%であり、3.0 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 0.3 ポイント低くなっている。

中学校国語B区分



B 区分問題（主として「活用」に関すること）

全国の平均正答率が 51.0%であるのに対し、高石市は 51.3%であり、0.3 ポイント上回った。

大阪府の平均正答率は 47.2%であり、4.1 ポイント上回った。

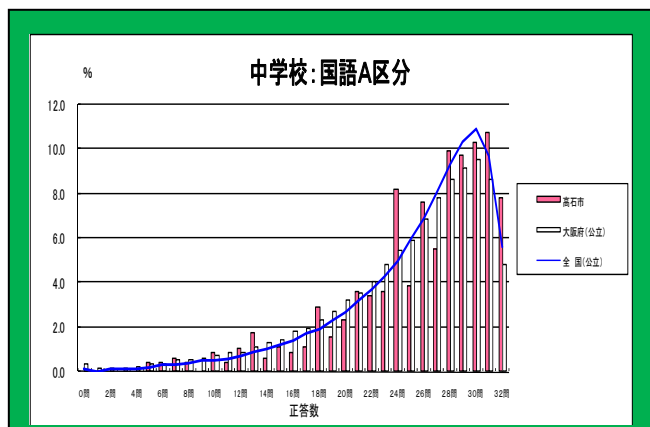
無答率においては全国の状況より 1.0 ポイント高くなっている。

正答数の分布については、下のグラフ《緑色枠》より、A 区分（主として「知識」に関する問題）では概ね全国と同じ傾向であることが分かります。B 区分（主として「活用」に関する問題）の正答数の分布は、分布の山の頂点が2つあり、左側の山の人数の割合が多いことに課題がみられます。

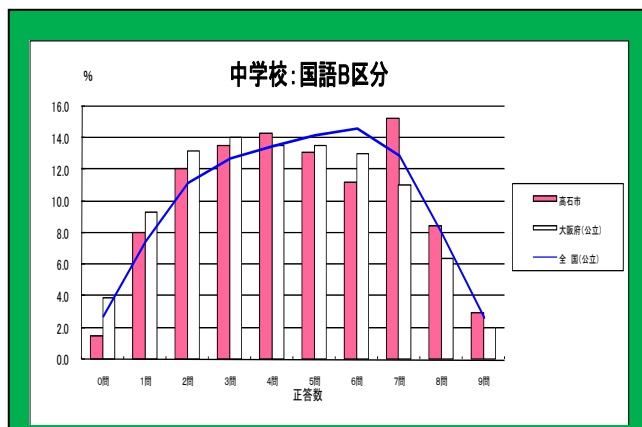
次ページのグラフ《黄色枠》より、いくつかの領域・問題形式で全国と比較して平均正答率が若干上回りました。しかし、A 区分については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で、B 区分では、「書くこと」「読むこと」の領域、「記述式」の問題で若干低い結果となっています。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

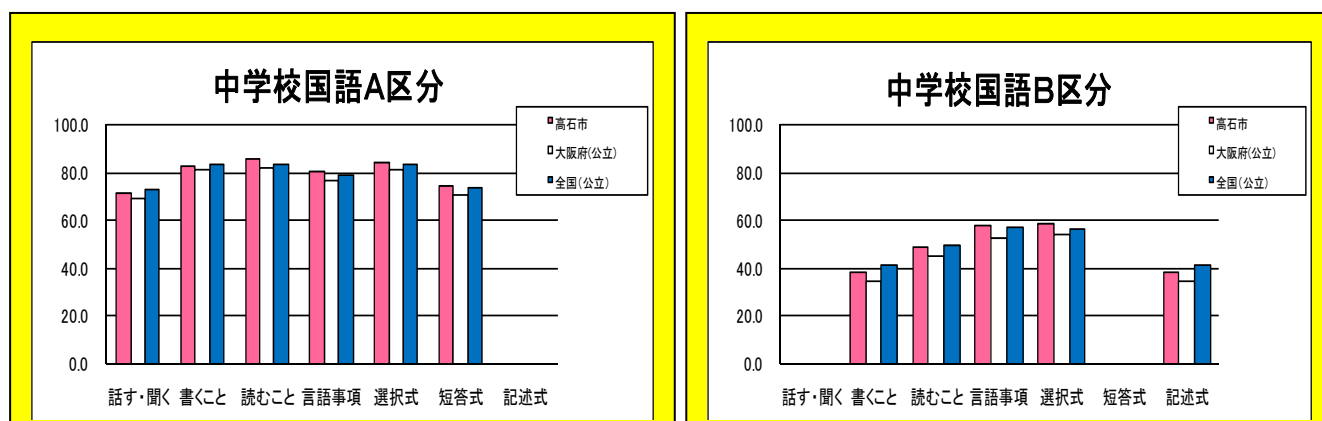
中学校：国語A区分



中学校：国語B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全32設問中31・32問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。また、0～4問正解した人は0人であり、昨年課題であった基礎・基本の内容の定着に一定の成果がみられます。

領域別にみると「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、全国と比べて正答率が若干下回りました。

設問別に見ると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、特定の設問で、全国よりも低くなっています。

実際の言語活動を行う際に必要な力である「文章から目的に応じて必要な情報を読み取ること」に課題があります。

無答率については、全国よりも若干低くなっており、改善がみられます。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全国と比べて、全9設問中7～9問正解した人の割合が若干多くなっていますが、一方で1～4問正答した人の割合も多くなっていることが分かります。

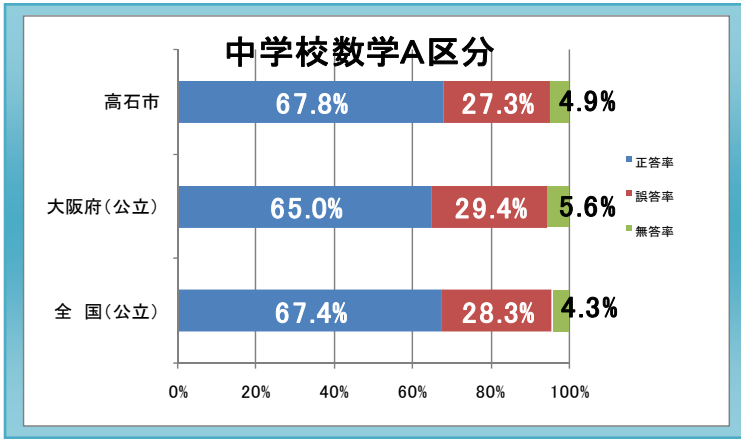
領域別に見ると、「書くこと」の領域、「記述式」の問題について、全国よりも低い正答率になっています。

特に「記述式」の問題では特に無答率が高い傾向になります。これからも課題に沿った「書くこと」の活動を意識した指導について取り組みの充実に努める必要があります。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、全国平均よりも全体的に低い結果になっており、課題があります。

特に「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く」活動や「文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く」活動について、大きな課題があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

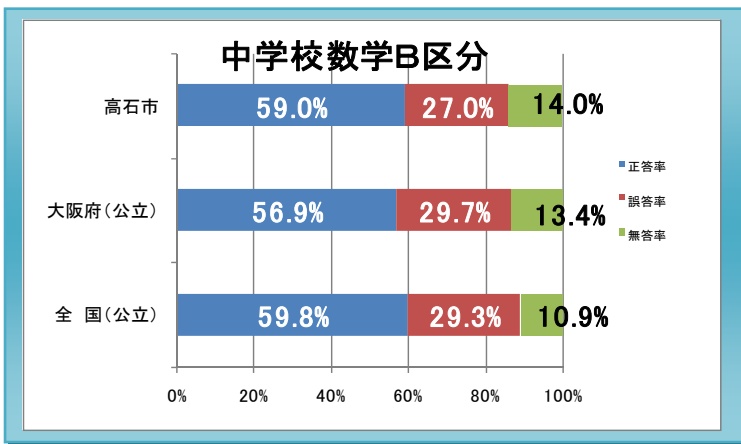


A 区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が 67.4% であるのに対し、高石市は 67.8% であり、0.4 ポイント上回った。

大阪府の平均正答率は 65.0% であり、2.8 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 0.6 ポイント高くなっている。



B 区分問題（主として「活用」に関すること）

全国の平均正答率が 59.8% であるのに対し、高石市は 59.0% であり、0.8 ポイント下回った。

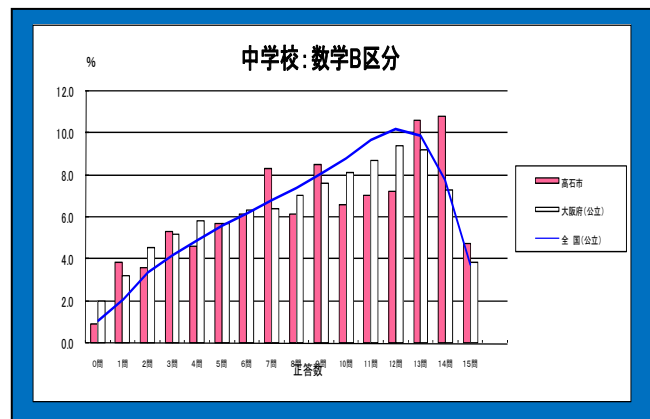
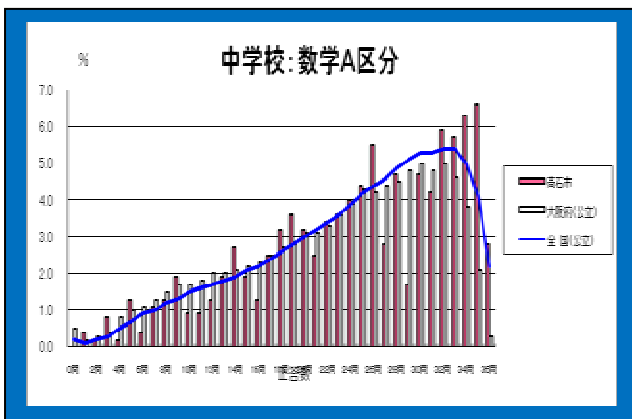
大阪府の平均正答率は 56.9% であり、2.1 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 3.1 ポイント高くなっている。

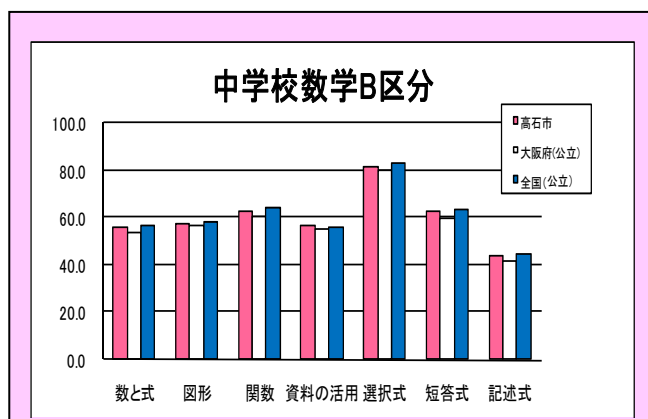
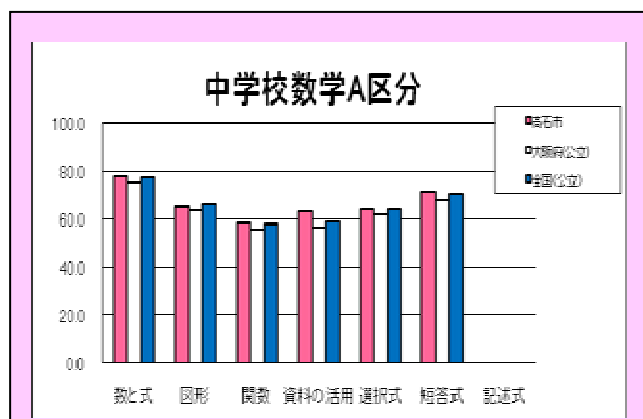
正答率の分布については、下のグラフ《青色枠》より、A 区分（主として「知識」に関する問題）・B 区分（主として「活用」に関する問題）ともに、へこみ等、少しばらつきがみられるものの、概ね全国と同じ傾向であることが分かります。

領域別にみると、次ページのグラフ《桃色枠》より、いくつかの領域・問題形式で全国と比較して平均正答率が若干上回りました。しかし A 区分については、「図形」の領域、「選択式」の問題で、B 区分では、ほぼすべての領域、問題形式で若干低い結果となっています。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全36設問中32～36問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、1・3・5問正答した人の割合も多くなっており、よく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二極化の傾向があることがわかります。領域別にみると、いくつかの領域、問題形式の正答率が、全国を上回りました。一方で「図形」領域については課題がみられます。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられます。

「図形の位置情報」「関数の意味理解」を問う問題に課題がありました。

根拠を明らかにする活動を通して、意味理解を深める学習に取り組むことが必要です。

無答率については、全国よりも数値は高くなっていますが、改善がみられます。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）では、正答数の分布では全16設問中13～15問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、1～3問正答した人の割合も、全国よりも多くなっており、A 区分と同じ二極化の傾向がみられます。

領域別にみると、「資料の活用」領域で全国の正答率を上回りましたが、その他の領域、問題形式の正答率が、全国を若干下回る結果になりました。特に、「図形」「関数」領域、「選択式」「記述式」問題に課題がみられます。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、全国平均よりも全体的に低い結果になっており、課題があります。

「空間における図形の位置情報」「グラフの読み取り」「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題があります。解答の中で「説明すべき事柄」と「その根拠」の両方を示して説明する力が弱いためと考えられます。今後も、考え方の筋道を立てて答えを導き出す経験をさらに積み重ねていく必要があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっていますが、改善がみられます。

質問紙調査の結果概要

結果から見えてくる課題

単位は、%

	質問項目		高石市			全国		
			H24	H25	H26	H24	H25	H26
1	自分にはよいところがある	小	66.9	69.6	71.9	76.8	75.7	76.1
		中	62.1	60.3	60.5	68.4	66.4	67.1
2	将来の夢や目標をもっている	小	84.8	87.4	83.8	86.7	87.7	86.7
		中	75.7	73.8	71.9	73.2	73.5	71.4
3	1日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。(月～金)	小	***	***	19.6	***	***	15.1
		中	***	***	55.9	***	***	56.4
4	家庭学習の時間が30分以下(月～金)	小	24.5	19.1	25.3	14.1	12.2	12.7
		中	20.4	19.9	18.4	16.2	14.7	14.7
5	家で学校の宿題をしていますか	小	97.6	97.7	95.2	97.0	96.4	96.5
		中	76.1	80.9	82.9	86.2	86.8	88.2
6	家の人と学校の出来事を話す	小	75.9	72.5	75.5	75.9	76.5	80.4
		中	65.1	63.0	75.5	66.0	66.6	72.6
7	学校に行くのが楽しい	小	***	86.1	84.4	***	85.0	86.6
		中	***	77.7	79.6	***	80.5	82.4
8	学校のきまりをまもっている	小	78.7	82.9	76.3	91.3	90.6	90.5
		中	92.0	89.4	94.9	92.1	92.5	93.0
9	人の気持ちが分かる人間になりたい	小	94.5	92.2	92.2	94.2	93.0	94.4
		中	95.8	93.7	95.1	95.0	94.2	95.3
10	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	小	94.4	96.1	93.3	95.4	95.9	96.4
		中	92.7	88.8	90.3	92.7	93.5	93.4
11	国語の勉強は好きだ	小	60.5	52.2	51.0	63.3	57.9	59.2
		中	59.3	43.7	58.8	58.3	57.7	58.2
12	算数の勉強は好きだ	小	55.6	57.5	55.9	65.1	66.2	66.1
	数学の勉強は好きだ	中	50.5	53.2	50.6	52.8	55.5	56.6

課題等について

小・中学校ともに、①、⑥という項目で、全国の割合は下回っているものの、市の割合は昨年度より上回っています。⑧の項目は、中学校では全国の割合を上回っており、改善がみられますが、小学校では、昨年度と比べて、全国との差が大きく広がり、再度「学習規律」の重要性を捉え直す必要があります。

⑪の項目では、中学校では全国と同等の割合で、経年変化でも改善がみられますが、小学校においては全国との差があります。⑫の項目では、小・中学校ともに全国の割合を下回る結果となりました。

今年度新たに③の項目が質問紙の項目にあがり、中学校は全国と同等の割合ですが、小学校は全国の割合を上回り、引き続き経年変化を見ていく必要があります。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果は、

「自分にはよいところがある」

「人の気持ちが分かる人間になりたい」

といった自尊感情、規範意識に関する項目については、前回までの調査と比較して、一定の改善がみられることがわかりました。

その一方で、

「文章や資料をもとに、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」

「図形の特徴を理解し、作図方法の説明や図形の位置関係を証明すること」

という点においては、課題であることがわかりました。

これらへの対応策として、

- ・ 伝えたい事柄を明確にして、分かりやすく書く指導の工夫
- ・ 図形の約束や性質と、操作とを関連づけて理解する指導の充実

を授業改善における目標として、

- ・ 「説明すべき事柄とその根拠の両方を示して説明する」活動
- ・ 「具体物を使用しながら、学習活動を視覚的に捉え考えていく」活動

を大切にしたい取り組みを進めていくことに努めていきます。

また、昨年、児童・生徒アンケートからみえた課題として挙げました「学校や家庭での読書時間の短さ」については一定の改善がみられました。これは、学校と家庭が協力して、子どもたちの読書量を増やす取り組みが実を結んだ結果です。その一方で、「携帯電話・スマートフォンの使用時間の長さ」については、大阪府や全国よりも使用時間が長く、課題があることがわかりました。

携帯電話・スマートフォンの適切な使い方については、学校でも指導に努めてまいりますが、是非ご家庭でも使用に際して使用する場面や時間等、きまりを話し合うことやルールの遵守について、ご協力をいただければと考えております。

このような課題解決を行う方策としまして、昨年度から各小・中学校においては学力向上大作戦と銘打って、各学校の学力改善策を検討し、それに基づいた学力向上のための取り組みを行っております。引き続き、家庭学習に協力していただきたく、次ページには、家庭学習を行う際に参考にしていただける資料及びワークシートを掲載させていただいております。

13ページには各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点を記載してあります。今後とも高石市の教育にご理解、ご助力をいただきますようお願いいたしますとともに、地域・家庭の皆様と連携して高石市の子どもたちをよりよい方向にはぐくんでいきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

自学自習力をはぐくむ ワークブック問題（大阪府教育委員会が配信）

小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に学習することができる教材です。各学校でも活用しています。

HPアドレス <http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>



力だめしプリント・力だめしミニプリント

（大阪府教育委員会が配信）

小・中学校の児童生徒に身につけさせたい学力の中で、知識・技能を活用する力を問う学習教材です。各学校でも活用しています。

HPアドレス
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikaramini/index.html>



高石市教育委員会及び学校の取組み

☆教育委員会が中心となって取組んでいること

- ◆大阪府教育委員会と連携し、各学校の取組みの進捗を毎月確認した上で、授業研究を中心とする校内研修の活性化を図り、授業改善に取り組んでいます。
- ◆外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、算数や国語等他教科での言語活用の力を高めます。
- ◆各学校が立てた「学力向上大作戦」(P 1 2 参照)に基づいて課題に正対した授業改善・学力向上に対する取組みを支援していきます。
- ◆学力向上専門員が各学校の授業を参観し、「授業のスキルアップ」、「児童生徒への実践的指導力」等の指導を行い、各校の授業改善に努めています。
- ◆小さい頃からのキャリア教育やスポーツ選手を招いて行う「夢先生」による夢の教室の実施等の体験活動を重視することにより、知識を実践に結びつける力や自分の将来について考えることができる素地を育成します。
- ◆各小・中学校では、各校工夫を凝らした学力向上のための施策を実施しています。さらに、その輪を中学校区に拡大し、合同の研修会や学力担当者会議等を開催することにより、情報交換と共有を行い、小中連携による学力向上のための取組みにつなげています。また、大学等から外部の方々を講師として迎え、専門的な視点から助言をいただいています。
- ◆市の教育課題に応じた研修を積極的に行い、教職員の資質・指導力向上を図っています。
- ◆3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
- ◆放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。

☆各学校が現在取組んでいること

(下記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく、各小中学校が実態に応じて取組んでいます。)

- ◆学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
 - ・放課後学習の実施
 - ・長期休業期間中の学習会の実施
 - ・「家庭学習の手引き」の作成、配布
 - ・効果的な宿題の取組み
- ◆指導内容・指導方法の工夫の推進
 - ・調査から見える成果と課題を踏まえ、「学力向上大作戦」をもとに、授業改善及び学力向上に対する取組みの改善
 - ・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
 - ・大阪府教育センター・大学等外部講師による指導・助言
 - ・基礎・基本の徹底と繰り返し学習の実施
 - ・実験・観察などの活用場面を取り入れた授業研究
 - ・児童・生徒のコミュニケーション能力を高めるため音読・話し合い・発表など子どもたちが授業の中で聞いたり、話したりする学びあいのある授業展開の工夫
 - ・児童・生徒が不得意とする記述式の問題等への対応のための指導工夫
- ◆読書活動の一層の推進と充実
- ◆学習規律の徹底を図り、より一層の「落ち着いた授業」への取組み
- ◆あいさつ運動など基本的な生活習慣の向上のための取組み
- ◆一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
 - ・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

地域・家庭にご協力いただきたいこと

- ◆「他人を認め、自分を大切する」こと(自己有用感)の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもたちと話し合ってくださいと思います。
- ◆各校における「家庭学習の手引き」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ご家庭における読書の機会向上や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等)についてご協力をお願いします。
- ◆PTA活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆学校と共に3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)など、基本的な生活習慣の向上のための取組みへのご協力をお願いいたします。

小学校国語

原田さんのまとめ

ぼくが、疑問に思った「A」
 ということについて、次のことが分かった。
 大昔のゾウの鼻は、今のゾウの鼻よりも短かったが、体が大型化し、口が地面からはなれてはなれていったようだ。そして、鼻と上くちびるがいっしょに長く伸びていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようである。長い鼻を使うことで、食べ物をつかんだり、水をすいあげたりすることができる。また、水浴びや、あいさつをすることもできる。調べていくうちに新たな疑問も出た。鼻の短い動物の鼻の役目は何かということだ。例えば、カバやブタは、鼻を使って何ができるのか調べたい。

野口さんのまとめ

わたしが、疑問に思った「ゾウの長い鼻は、においを感じ取ることができるのか」ということについて、次のことが分かった。
 ゾウの鼻は、長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。二、三キロメートル先のおいをかき分けることもいわれている。すぐれた鼻を使うことで、

原田さんの疑問

【分かったこと】
 ①鼻は、今よりも短かったが、体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようだ。
 ②鼻と上くちびるがいっしょに長く伸びていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになった。

野口さんの疑問

【分かったこと】
 ①長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。
 ②二、三キロメートル先のおいをかき分けることもいわれている。

新たな疑問

③長い鼻を使うことで、できること。
 (食べ物をつかむ、水をすいあげて飲む、水浴び、あいさつ)

④鼻の短い動物の鼻の役目は？
 ・カバやブタは、鼻を使って何ができるのか。

⑤においを感じ取ることにはすぐれた動物はどのような動物か？
 ・イヌは、どれくらい先のおいを感じ取るのか。

二 原田さんと野口さんは、書いたふせんを整理しながら「疑問」に対するまとめを書いていきます。「野口さんのまとめ」の B の中には、どのような内容が入ると考えられますか。小さな内容も、「原田さんのまとめ」の書き方を参考にし、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「野口さんのふせん」⑤と⑥の両方の内容を使って書くこと。
- 「野口さんのふせん」⑤の内容については、「科学読み物」の部を一文にして書くこと。また、⑥の内容については、「例えば」という言葉を使って書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、百字以上、百二十字以内にもまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

解説

B区分(主として「活用」に関する問題) 2 の(2)

科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを関係づけながらまとめて書く問題です。

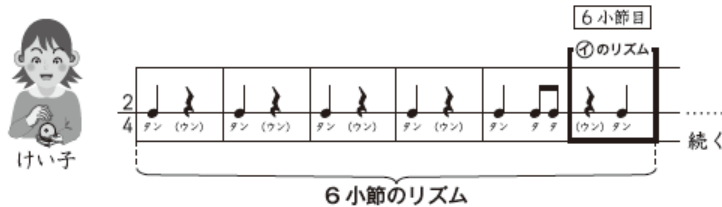
この問題では、目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関連付けて読む力が求められます。

複数の内容を1文にまとめたり、「例えば」という言葉を使って具体的な事例を示したりして、条件に合わせて文章を書くことに課題がみられます。

1 (5) $100 - 20 \times 4$

4

(2) 次に、けい子さんも加わって、まさるさんと演奏することになります。
 けい子さんは、カスタネットで下の6小節のリズムを何回かくり返します。
 けい子さんの6小節目とまさるさんの4小節目は、同じリズムです。
 これを、㊦のリズムとします。



けい子さんとまさるさんは、同時に演奏を始めました。
 すると、12小節目に2人の㊦のリズムが重なりました。
 2人の㊦のリズムが重なる12小節目の「12」は、どのような数ですか。
 言葉と「4」と「6」の数を使って書きましょう。

解説

A区分（主として「基礎」に関する問題） 1 の (5)

四則の混合した計算ができるかどうかを見る問題です。

計算の順序についてのきまりをきちんと理解できているかが問われます。

() のついた計算や四則の混合した計算の順序の理解について課題がみられます。

B区分（主として「活用」に関する問題） 4 の (2)

音楽科の学習に関連して、示されたリズムを考察する問題です。

この問題では、周期が異なる二つのリズムを倍数の考え方と関連付け、算数の用語を用いて表現する力が求められます。

算数の用語を用いて、日常生活の事象を的確に表現することに課題がみられます。

2

【本の一部】

次は、接着剤について書かれた「本の一部」と「インターネットの情報の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。

接着する物の表面を顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸



のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいます。アンカーとは船の錨のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態での表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物とをくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発することで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側のこの部分は、ぬらすことで液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。また、アイロンでくっつけるタイプのアンプリケの場合は、固まっていた接着剤がアイロンの熱によって溶けていったん液体になり、それが冷えて固体になることでくっつきます。このように、熱を加えて接着剤を一度溶かし、その後、液体が冷えて固まることでくっつく接着剤をホットメルト接着剤といいます。他にも、液体が化学変化を起こして固体になるものがあります。例えば、瞬間接着剤はその一例です。物の表面には、乾いているように見えてもわずかに水分が含まれています。また、空気中にも水分が含まれています。瞬間接着剤は、それらの水分に反応し、非常に速いスピードで固体に変化するので、

最後に、接着剤がどのような場面で使用されているか考えてみましょう。

接着剤の用途を調べると、思いもよらないものに接着剤が使用されていることに気付きます。例えば、飛行機やスペースシャトルの機体の組み立てには接着剤を使用しています。電子部品を作る際にも、金属の粉などを混ぜた接着剤を使用することがあります。また、つり橋の中には、橋を支えているロープを、コンクリートでできた土台の中に接着剤で固定している橋もあります。このように、現代において接着剤は、様々な場面で使用されています。

〔注〕 溶剤：物質を溶かすのに用いる液体状のもの。

〔注〕 アンプリケ：布地の上に、別に切り抜いた布や紙を縫い付けたり、貼り付けたりする手芸。また、その付けられたもの。

※ 「インターネットの情報の一部」は、次のページにあります。

■飛行機

飛行機の機体を組み立てるときにも接着剤を使います。以前はリベット（びょう）でとめていましたが、接着剤を利用することで空気抵抗が少なく、機体が軽くなるので、速度性能や燃費が向上しました。また、リベットは点で固定していますが、接着剤でとめると、面で固定できるので、強度を増すことができます。



■スペースシャトル

スペースシャトルの表面にはたくさんのタイルが接着剤でつけられています。大気圏に突入するときのまさつねつと宇宙空間での太陽熱にたえるために、スペースシャトルの材料にはタイルが使われています。そのタイルが割れたり、はがれたりしないように、弾力があり、1500℃の高温にもたえるすぐれた接着剤が使われています。



■医療用接着剤

歯医者さんで歯につめものをしたり、人工の歯をつけたりするときには医療用の接着剤を使います。また、骨をつなげたり、食道や胃、血管などをつなぎあわせるときに使われる接着剤も開発されています。



■食品の容器

牛乳の紙パックは熱と圧力を加えてくっつけています。プリンやゼリーのふたのフィルムは、しっかりと密閉し、食べるときには簡単にはがせるような接着剤が使われています。



（経済産業省ウェブページによる）

三 封筒に貼ってある切手を水の中にしぼり浸しておく、きれいにはがすことができます。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

解説 B区分（主として「活用」に関する問題） 2-1-3

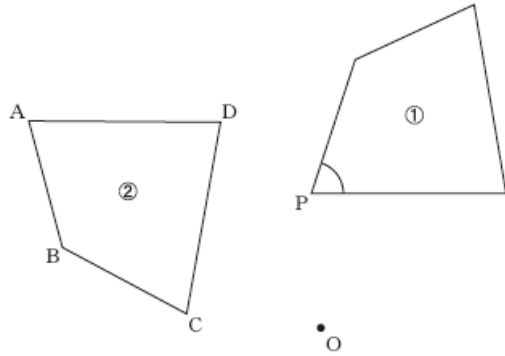
資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかをみる問題です。

この問題では、【本の一部】から、接着剤がものをくっつける仕組みや、切手ののりの性質などの情報を適切に得て、分かりやすく説明する力が必要になります。

文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられます。

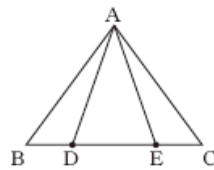
中学校数学

(3) 次の図で、四角形②は、四角形①を点Oを中心として反時計回りに 80° だけ回転移動したものです。
 四角形①の $\angle P$ に対応する四角形②の角を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



- ア $\angle A$
- イ $\angle B$
- ウ $\angle C$
- エ $\angle D$

4 下の図のように、 $AB = AC$ の二等辺三角形ABCの辺BC上に $BD = CE$ となる点D, 点Eをそれぞれとります。



(2) $\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。

解説 A区分 (主として「知識」に関する問題) 4- (3)

図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができるかどうかをみる問題です。

移動前と移動後の2つの図形がきまりに従って移動していることを捉え、2つの図形の間を関係を理解する力に課題がみられます。

B区分 (主として「活用」に関する問題) 4- (2)

付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだしたことや証明されたことを用いることができるかどうかをみる問題です。

付加された条件に合うように図を書き直すとともに、証明を振り返り、証明の過程で見いだしたことや証明されたことも利用して問題を解くという「活用する力」が必要になり、その点において課題がみられます。